

# グローバル・エリアスタディーズ プログラムの教育における 3つのポリシー

# 1.ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

- ・ 国際開発や国際協力等に関する高度な専門知識・技術を身に付けて、グローバルな諸問題を理解し解決する能力を修得
- ・ 世界各地の政治・社会の多様性等に関する高度な教養を身に付けて、課題に対する学際的な思考能力を修得
- ・ 日本及び世界各国の諸問題・諸課題に対して、グローバルな観点から問題解決を実践するために具体的な情報収集、調査・分析する能力を修得
- ・ グローバルな実務に対応可能な企画・提案能力とコミュニケーション能力を修得

## 2.カリキュラム・ポリシー（学修・教育目標を達成するための教育体系）

### 【教育課程編成の方針】

ディプロマポリシーとして掲げた修了認定の基準を実現するため、高度な学際的思考力・実践力や境界領域・異分野の専門知識・技術を養成するとともに、研究テーマに関連した学位プログラム間の連携・融合を図るカリキュラム編成・研究指導を実施する。

### 【教育内容の学修方法】

次に掲げる科目を配置し、これらを事例研究、グループワーク、フィールドワーク、ワークショップなどの方法により主体的な学修を行う。

- 地域の多様性を理解するためのエリアスタディーズ科目群と、国家間・国家-社会・国家と非国家主体関係を普遍的な視座から理解するためのグローバル・スタディーズ科目群を配置
- 社会開発や国際的な政治・経済現象など、多様性に富んだグローバルな空間で発生する諸問題に取り組むため、2科目群を有機的に連携させる
- グローバルな諸問題の調査及びその解決のための実務能力の養成のために、フィールド調査に従事する臨地研究科目を配置

研究指導に当たっては、主指導教員1名と副指導教員2名の計3名を配置し、この内、第1副指導教員は学位の専門性を担保するために同じ学位プログラムの教員から、第2副指導教員は、専門分野に対して境界領域や学際領域の観点から学生の研究進捗や専門能力の修得に対して指導を行い、最終的に高度な専門力と実践力を身に付けさせる。

### 【学修成果の評価方法】

学修成果の評価は、授業科目ごとに定める達成目標に応じ、科目の態様に従って、試験、レポート、作品、発表などにより評価する。修士論文及び特定の課題についての研究成果に係る評価は、大学院学位論文等評価基準（博士前期課程）に基づき評価する。

### 3. アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

#### 【求める学生像】

- ・ 国際学を学修するために必要な国際協力論、政治学、経済学、地域研究等の基礎学力を有する人
- ・ グローバルな諸問題に関心を持ち、学際的な幅広い教養と問題解決に必要とされる高度な実践力を身に付けて、新しい課題の解決に挑戦する意欲のある人
- ・ グローバル・エリアスタディを通じて地域社会に貢献することに強い関心と意欲のある人

入学者選抜の基本方針については[こちら](#)